

すべてのものをすてて、わたしはよみがへる。

O H T E
T A K U J I
大手拓次展
5/21^{2022年}_土 - 9/19_{月・祝}



萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち

前橋文学館

- 主催：前橋市 ■会場：前橋文学館 2階展示室 ■開館時間：9時～17時(入館は30分前まで) ■休館日：水曜日
■観覧料：一般500円 ※朔太郎展示室もご覧になれます。※高校生以下無料 ※障害者手帳等をお持ちの方とその介護者1名無料
■観覧無料の日：5月21日(土)(展覧会初日)、前橋七夕まつり開催日、9月3日(土)(前橋文学館開館記念日)、9月19日(月・祝)(展覧会最終日)

■協力：安中市学習の森ふるさと学習館、川島幸希、群馬県立土屋文明記念文学館、
舌切雀のお宿 磯部ガーデン、ライオン株式会社(敬称略・50音順)

前橋市市制施行130周年記念

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況によって、開催や内容の変更をさせていただく場合があります。
ご来館の際は、事前にホームページをご覧いただくか、お電話でお問い合わせください。

あなたの詩をよむのは香水のほひをかぐやうな気持ちとする。— 萩原朔太郎



前橋文学館
展覧会案内サイト



前橋文学館
HPトップ

すべてのものをすてて、わたしはよみがえる。

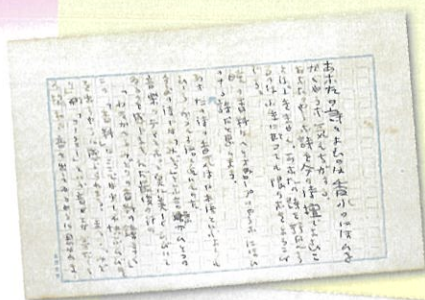


大手拓次 1924(大正13)年ごろ

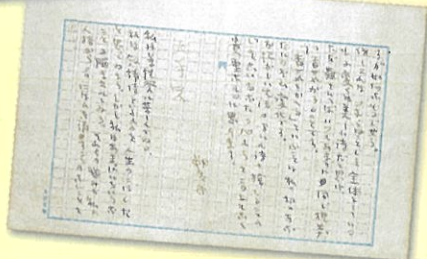
大手拓次 (おおてたくじ)

1887(明治20)年11月3日-1934(昭和9)年4月18日群馬県碓氷郡西上磯部村(現安中市磯部)、磯部温泉の鳳来館に次男として生まれる。幼少時に父母が他界し、祖父母に育てられる。早稲田大学在籍中にフランス象徴詩に傾倒。北原白秋の門下であった拓次は、萩原朔太郎、室生犀星とともに「白秋旗下の三羽鴉」と呼ばれ、朔太郎の詩にも影響を与えた。また文案係として、美容衛生の世界で得た知識も作品へ反映したとされ、肺結核で早世するまで、独自の世界を築いた。没後、親友逸見亨の編集により、詩集『藍色の墓』、詩画集『蛇の花嫁』、訳詩集『異国の香』、『詩日記と手紙』が刊行された。

O H T E
T A K U J I
大手拓次展



萩原朔太郎書簡 大手拓次宛
1917(大正6)年



「あなたの詩をよむのは
香水のほひをかぐやうな気もちがする。」
萩原朔太郎は大手拓次の詩をそう表現しました。
ポードレールなどフランス象徴詩に傾倒し、独学で訳詩も手がけた大手拓次。46歳で早世するまで、多くの薔薇の詩を含む2400篇あまりの詩を生み出しました。一方で、小林商店(現ライオン株式会社)の文案係(コピーライター)でもあり、コレクションしていた香水を愉しみながら詩を書いていたと言います。
本展では、「薔薇の詩人」と呼ばれる大手拓次の香しい世界をご紹介します。朔太郎との交流を振り返ります。



「ねる前の三分間物語」
1933(昭和8)年



「詩と音楽」
1922(大正11)年



「藍色の墓」
1936(昭和11)年

あなたの詩をよむのは香水のほひをかぐやうな気もちがする。

関連イベント

大手拓次を読むーこえは あさつゆのきえるけはい

日 時 8月20日(土) 14時～
会 場 文学館3階ホール
参 加 費 参加費無料(当日有効の展示観覧券をお持ち下さい)
出 演 群馬県内の高校生、芽部、萩原朔美(前橋文学館館長)
申 込 先着50名、7月23日(土)より電話(027-235-8011)にて

展示解説日 7月9日(土)、8月7日(日) 14時～ 各回約30分 ※申込不要

同時開催

「日常の実験・実験の映像 かわなかのぶひろ展
ー私が出会った表現者たちV」

会期 2022年5月28日(土)ー9月25日(日)
会場 3階オープンギャラリー 観覧無料



萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち

前橋文学館

〒371-0022 群馬県前橋市千代田町三丁目12-10
TEL.027-235-8011 FAX.027-235-8512
<https://www.maebashibungakukan.jp>

アクセス(交通案内)
電 車: JR前橋駅から徒歩約15分、上毛電鉄 中央前橋駅から徒歩5分
自動車: 関越自動車道 前橋ICから車で約15分
※広瀬川サンワパーキング(市営P城東)のご利用に際しては、駐車券に割引処理をいたします。



あさつゆのきえるけはい。ー 萩原朔太郎